

単元到達度評価問題の活用 子供のつまづきを分析して指導のポイントを探る！

単元の学習に入る前に、単元到達度問題を解いてみると・・・。

到達率は50%
くらいかな？

大問3は解けない子
が多そうだな...



計算問題はできるけど、
説明する問題が苦手な子
が多いから...

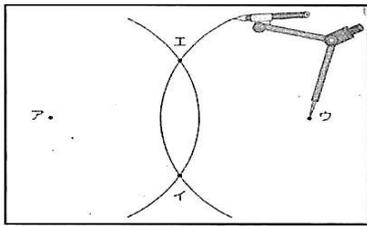
この気づきがスタートです！

何が原因で解けない
のでしょうか？



**事前に「問題が解けない(解けそうにない)原因」を分析して、
指導のポイントを探ってみましょう！**

下の図のように、点ア、点ウを中心とする同じ半径の
円をかき、交わった点をそれぞれ点イと点エとします。



(1) 4つの点、アイウエをつないでかいた四角形は
何という四角形ですか。(答え1点)

(答え)

(2) (1)の四角形ができるわけをせつ明しましょう。
(単元到達度評価問題 4年 6月より) (答え2点)



4つの点、アイウエを直線でつなぐと、
ひし形になることは分かると思うので
すが、その説明ができるだろうか...

**【ポイント①】
学習内容の系統性に注目！**

3年生では、コンパスで長さを調べる
学習を行っています。コンパスは単
に円をかくだけでなく、与えられた点
から等距離にある点を見付ける道具
でもあるということを、再度おさえる
必要がありますね。

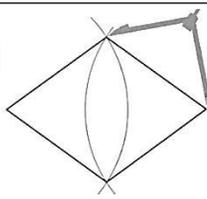


□問題を解くための知識・技能が前学年ま
でに身に付いているかどうかを確認する。

【ポイント②】適用題で算数用語を使った全員アウトプットを！

半径が等しい円を2つかき、交わった点と
中心を直線でつなぐと、ひし形ができます。
そのわけをかきましょう。

(啓林館4年上より)



教科書に類似問題があります。授業で
適用題として扱う際には、半径、交わる
点、辺、ひし形といった算数用語を使っ
てアウトプットすることができるようにし
ましょう。

- おさえるべき算数用語を
確認する。
- 全員が正しい説明を一人で
最初から最後まで言ったり
書いたりする場面を設定する。

2つの円の半径が等しいとい
うことは、交わった点とそれぞ
れの円の中心をつなぐ直線は、全
て同じ長さといえるね。

そうだね。つまり、辺
の長さが全て等しくな
るので、ひし形になる
んだね。



この2つを合わせた説明が一人でもできるようにすることが大切です！

3 答えが、 $4.8 \div 0.8$ の式で求められる問題を、下のアからエまでの中から
すべて選んで、その記号を書きましょう。(答え完答2点)

- ア 1 mの重さが4.8 kgの木のぼうがあります。
この木のぼう0.8 mの重さは何kgですか。
- イ 0.8 Lでかべを4.8 Lのペンキ1 Lでは
- ウ 赤いテープの長さは
- 白いテープの長さは
- 白いテープの長さは
- エ 長さが4.8 mのリボン

全国の正答率は、40.1%でした。
アとエの2つを選択している割合が21.4%であり、エ
を選択することはできているものの、比較量を求める
ときは乗法ではなく除法を用いると捉え、アを選択して
いると考えられます。
図や数直線などを用いて、数量の関係を的確に捉え、
立式できるようにすることが大切です。

ポイント

指導のポイントを見付けるのが難しいと思われ
たら、ぜひ「単元到達度評価問題」の解答を御
覧いただき、吹き出しの中の解説を参考にし
てください。

☆付けるべき力を意識して授業に臨むために、
指導のポイントを年間指導計画に書き込む、
教科書にメモしたものを貼っておくなどの工夫
もおすすめです。

